

国語科学習指導案

授業者：4年1組 下河 真理絵
2組 三田 瑞歩

- 1 学年・組 4年1組（33名） 4年2組（31名）
2 単元名 新聞記者になって取材し、「ごんぎつね新聞」をつくろう
「ごんぎつね」

3 単元について

- 本単元では、学習指導要領「C読むこと」(ウ)「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」と(オ)「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」をねらいとしている。そのために、『ごんぎつね新聞』をつくろう」という言語活動を設定した。「ごんぎつね新聞」では、まず取材ノートに登場人物の行動や気持ちなどを書きためていく。その取材ノートを基に、物語の見どころを考え、自分の感想などと合わせて書くことで、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を関連させて考えることができる。また、取材をするようにしてまとめることで、物語の世界に入り込むことができ、目的や必要に応じて文章を引用したり要約したりする力がつくと考えられる。

教材文「ごんぎつね」の特徴として次のことがあげられる。第一に、起承転結がはっきりとしてわかりやすく、劇的なストーリーであることである。第二に、ごんという親しみやすい性格の登場人物に寄り添って物語が進行していき、登場人物の気持ちに共感しやすいことである。表現の特徴としては、会話文や心内語の効果的な使用、情景描写の巧みさなどが挙げられる。また、中心人物の視点が移動していることも特徴である。第一場面から第五場面、そして第六場面の途中までは、語り手はごんの視点から語っている。第六場面の途中から視点が移動し、兵十の視点になる。第三に、物語の情景が鮮明に描写されていることである。兵十が撃った直後に、いつも栗をくれたのがごんであったことに気付く六場面がクライマックスである。最後は、「青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。」と余韻を残して終わっている。このような物語の特性から、きっとどの児童も「ごんぎつね」の物語の世界に浸り、味わうことができると思う。

- 児童は、4年生1学期に「一つの花」の作品で、戦争にまつわる親と子の家族愛をテーマになぞときボックスをつくり、物語を紹介するという言語活動を経験してきている。なぞを設定したり、なぞの答えを考えたりするために、家族の絆や戦争によって引き裂かれていく心の動きを読み深めたりしてきた。

今回、「ガオーッ」でレディネステストを行った。

① 登場人物の行動を読み取っている。	94%
② 登場人物がなぜその行動をしたのか理由を読み取っている。	70%
③ 登場人物の気持ちを考えている。	85%

以上の結果から、児童は、登場人物の行動を見つけることができるが、登場人物がなぜその行動をしたのか、どのような気持ちでそうしたのかを読むことができていな

い。行動そのものだけを取り上げて考えるのではなく、それまでの登場人物同士の関係や行動、状況などを含めて考えるという指導が不十分であった。

また、協働的に学ぶ児童の実態を把握するために、アンケートを実施した。

① A評価を自分で考え、振り返りもできる。	93%
② つけたい力に合ったA評価を自分で考え、振り返りもできる。	36%
③ 「話し合いの型」をもとにして自分の考えを伝え、うなずきなどの反応をしながら相手の考えを聞ける。	98%
④ 「話し合いの型」をもとにして自分の考えを伝え、相手に質問を言ったり意見を言ったりできる。	38%

意識アンケートからは、A評価や振り返りを自分で考えることはできるが、つけたい力につながるA評価を考えることは半数以上の児童ができていないことが分かった。また、「話し合いの型」を基にして自分の考えを伝えることはできている。しかし、相手の考えに対してうなずきなどの反応をして聞いて受け止めることはできているが、相手に質問を言ったり意見を言ったりすることは十分できていないことが分かった。

児童実態からみる課題

【課題となる力】

- 行動から、理由や考えを想像する力。
- 登場人物の気持ちを考える力。

【指導上の課題】

- 叙述を基にして想像を広げさせる指導が不十分であった。
- 児童同士や教師が、考えをつなげたり深めたりする指導が不十分であった。

- 指導にあたっては、ごんと兵十の行動や心情の変化をつかみ、そのきっかけを考えさせながら読ませたい。そのために、教師は教材分析シートに、児童に立ち止まって考えさせたい語句や事柄理解、表現の工夫等を書きこみ、授業の組み立てや発問を考えていく。ごんと兵十の行動や気持ちを書いた取材ノートを各時間に作成し、二人の気持ちの変化を追っていく。また、取材ノートを基に「ごんぎつね新聞」を作って、読んだ内容や自分の考えを学年の友達に紹介し合うことを単元のゴールに設定する。学習リーダーが司会となり、授業の始めに単元のゴールやつけたい力、本時のねらい、自分のAのめあてを確認し、授業の終わりに自分のAのめあてについての振り返りを行う。

この課題解決に向けて、0次では、教師が新美南吉の他の作品を題材にした新聞を紹介することで、新聞記者として物語のおもしろさを紹介するよさを感じさせる。第一次では、「ごんぎつね」を読んで感想やなぞを交流し、つけたい力を確認した後で単元のゴールを決め、学習計画を立てさせる。新聞記者は取材を通して事柄のなぞを解きながら事実をより詳しくつかんでいく存在であることを示し、「ごんぎつね」のなぞを解きながら物語を読んでいくという目的意識をもたせる。なぞは、学級全体のなぞ、班のなぞ、個人のなぞの3つを決めさせ、学級全体のなぞでは大きななぞを設定し、物語全体を通して解決に結びつくようにしていく。班のなぞでは、班を新聞社に見立て、なぞについての答えや根拠を話し合う（編集会議）ことで自分と友達の考えを比べ、一人一人考え方は違うことを学ばせる。個人のなぞでは、自分がなぞに思ったところの答えを自分で明らかにしながら読むという目的意識をもたせる。新聞記者となって新聞を書くためには、実際の新聞を使って、字数制限を意識して記事を書く必要

性を感じさせる。そのためには、登場人物の人柄や行動をつかみ、出来事の背景などを取材ノートに集め、決められた字数の中で伝えられるように文にまとめる必要があることを知らせる。第二次では、まずごんがどんな生活や性格なのか叙述からつかませる。各時間で本時のねらいに沿った自分のAのめあてを立て、授業後に振り返りをさせる。次に、ごんと兵十の行動や気持ちの変化を読ませるために、登場人物の行動や会話を手がかりに、始めにつかんだごんの性格とつなげながら、ごんの行動が、いたずらからつぐないに変わったのはなぜか、つぐないを続ける中で、兵十と加助の会話を聞く前と聞いた後でどう変化したかなどを、きっかけとなる出来事を見つけながら、読み進めさせたい。そうして見つけたことを取材ノートに書いていく。取材ノートには、登場人物の行動や気持ち、出来事などを書いていく。その取材ノートをつなげていくことで、行動や気持ちの変化を捉えやすくできるようにする。第三次では、取材ノートを基に、新聞を書いていく。その際、自分が一番伝えたいこと、登場人物の紹介、自分の考えを入れて書くようにする。割り付けや小見出しを工夫し、挿絵や図なども入れながら工夫して新聞を作成させる。交流の際には、友達の捉え方と自分の捉え方とを比較することで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。

協働的に学ぶための授業づくりの工夫として、グループ学習を効果的に入れていき、友達の多様な考えを聞いて新たな視点に気付かせたり、自分の考えをもう一度見直したりできるようにしていく。

指導改善ポイント

- 自分の想像を膨らませることができるように、「登場人物」「文章の構成」「表現・叙述」などの視点に沿って読ませる。
- 自分の考えが深まるように、学習形態を工夫する。

【指導の工夫】

- 取材ノートを毎時間書き、自分の考えや前時の学習と照らし合わせながら読ませる。
- 自分の考えをもってペア学習やグループ学習や一斉学習に積極的に参加できるように、学び合いの視点をもたせる。

【城北中学校区共通の授業改善の視点】

- ・ J (じっくり考える) … ごんや兵十の気持ちの変化を、叙述を基にじっくり考えさせる。
- ・ H (はっきり表現する) … グループ学習で自分の考えをはっきり表現させる。
- ・ K (繰り返し粘り強く挑戦する) … グループ学習で話し合ったことを生かしてもう一度自分の考えを振り返って考えさせる。

4 単元の目標・つきたい力

単元の目標

- なぞを解くために自分から進んで物語を読み，取材ノートに書こうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 場面の移り変わりに注意しながら，ごんと兵十の性格や気持ちの変化，行動など叙述を基に想像して読むことができる。
(読むこと ウ)
- 班で根拠を基に自分の考えを話し合うことで，一人一人の感じ方の違いに気付いている。
(読むこと オ)
- 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア))

つきたい力

- ◎ ごんの気持ちや兵十の気持ちの変化を叙述に沿って読む力。
- 「ごんぎつね」を読んで，根拠を基に自分の考えを表現する力。
- ◎ ・ 登場人物の行動や気持ちの変化をとらえる力。
・ 理由を付けて感じたことや考えたことを表現する力。

第5学年へのつながり

学習指導要領

[C 読むこと]

- エ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。

5 単元の観点別評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「登場人物の気持ちの変化を読み深めたり心に残った場面を表現したりする言語活動」 を通した指導 [具体的な言語活動：新聞記者になって取材し，「ごんぎつね新聞」をつくろう]		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 叙述の中から，なぞの答えを見つけようとしている。 ○ 友達の作成した「ごんぎつね新聞」のよさを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 叙述を手がかりにして，人物の様子や気持ちの移り変わりを想像しながら読んでいる。(ウ) ○ 文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(イ(ア))

6 指導と評価の計画

(全13時間 本時☆印)

次	学習内容(時数) ○ 発問	評価			
		関	読	言	評価規準(評価方法)
一	<ul style="list-style-type: none"> つけたい力を確認する。 「ごんぎつね」を読んで、感想を交流する。(1/13) 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことや感想を見つけて書いている。(ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを決め、学習計画を立て、新聞の書き方を知る。(2/13) 			◎	<ul style="list-style-type: none"> 新聞の割り付けや小見出し字数制限など、新聞の基本の作りを理解している。(ノート)
二	<ul style="list-style-type: none"> 物語の状況設定を確かめる。(3/13) ○ごんはどんな人物でしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> ごんはどんな人物なのかや、ひとりぼっちのごんの気持ちを叙述を基に考えている。(ノート・取材ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 第一場面を読み、ごんの行動からその時のごんと兵十の気持ちを考える。(4/13) ○ごんはいたずらをしている時どんな気持ちでしょう。その時の兵十はどう思っているでしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 会話文や行動描写などから、ごんと兵十の気持ちを読み取っている。(ノート・取材ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 第二場面を読み、第一場面とのつながりやごんの気持ちの変化を考える。(5/13) ○ごんは、兵十のおっかあの葬式を見て、どのように気持ちが変わったでしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 兵十に心を寄せていくごんの様子の変化に気づき気持ちを考えている。(ノート・取材ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 第三場面を読み、ごんの兵十に対する気持ちがどのように行動に表れているか考える。(6/13) ○ごんは兵十にどのような気持ちをもってつぐないをしているでしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 兵十につぐないをしているごんの気持ちを考えている。(ノート・取材ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 第四・五場面を読み、加助の言葉によって、ごんと兵十の気持ちがどのように変わったかを考える。(7/13) ○加助が「神様だ。」と言った時、ごんと兵十はどのような気持ちになったでしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> ごんと兵十の気持ちが加助の言葉によって変化していることに気づき、気持ちを考えている。(ノート・取材ノート)
☆ 4-1	<ul style="list-style-type: none"> 第六場面を読み、ごんと兵十の気持ちの変化を読む。(8/13) ○兵十のごんに対する思いとごんの兵十に対する思いはどのように変わったでしょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> ごんを撃つ前と後の兵十の気持ちの変化と撃たれたごんの気持ちを考えている。(ノート・取材ノート)
三	<ul style="list-style-type: none"> 取材ノートを基に、「ごんぎつね新聞」をつくる。(9・10・11/13) ○物語のよさが伝わるように意識して、ごんぎつね新聞をつくりましょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを基に、物語の魅力が伝わるように、ごんぎつね新聞を作成している。「ごんぎつね新聞」
	<ul style="list-style-type: none"> 「ごんぎつね新聞」を互いに交流する。(12/13) ○自分の感じたことや考えたことと比べながら、友達「ごんぎつね新聞」を読みましょう。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 友達の作成した「ごんぎつね新聞」を読み、感じ方の違いを考えている。「ごんぎつね新聞」
	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返ってまとめる。(13/13) 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を通してついた力を具体的に振り返っている。(ノート)

7 本時の学習（2組）

（1）本時の目標（第7時／全13時）

叙述に即して、登場人物の心情の変化を読み深めることができる。

（2）授業の視点

ごんの兵十に対する気持ちの変化を順に追っていき、取材ノートに書かせる。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示 (5)	1 単元のゴールを確認し、前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごんが兵十に心を寄せ、いたずらのつぐないを続けていることを振り返らせる。 	
	2 本時のめあてを確認する。		
	3 自分の振り返りの視点を設定する。 例	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">加助の言葉を聞いた時の、ごんと兵十の気持ちを取材しよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">A ごんと兵十に与えた影響が最も大きい言葉は何か考える。</div>	
課題の解決 (30)	<p>4 ごんの兵十に対する気持ちの変化を考える。</p> <p>◎ ごんの兵十に対する気持ちに変化している言葉や行動には、どんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「へえ、こいつはつまらないな。」という言葉。 ・ 「かげぼうしをふみふみ行きました。」とあるから、兵十と加助の話を知りたい気持ちが高まっていると思う。 <p>◎ どのようなインタビューを考えてきましたか。新聞記者役とごん役と兵十役と加助役に分かれて、取材をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『ごんは、兵十と加助にどのくらいの距離についていったのですか。』 「気になるけど、二人に見つかりたくないから少し離れて歩きました。」 「行きは少し距離をとっていたけど、帰りは、かげぼうしがふめるくらいなので、見えるくらい近くにいました。」 ・ 『兵十と加助の会話を聞いて、ごんはどんなことを思ったのですか。』 「自分がしていることが伝わらなくて悲しいと思っていました。」 「本当は自分がつぐないとしてしていることなのに、神様と言われるのはしっくりこないから、兵十に気付いてほしいと思いました。」 ・ 『加助と会話をしている兵十はどんなことを思ったでしょう。』 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習で、ごんの兵十に対する気持ちに変化している言動や行動に線を引き、それに対する考えを書かせておき、それをもとに発表させる。 ・ 家庭学習で、新聞記者としてどのようなことをインタビューしたいか事前に考えさせ、インタビュー形式で気持ちを聞かせる。 ・ ごんが加助と兵十の話に強く興味を持っていることをおさえる。 <p>☆ ごんと兵十の位置関係を動作化させて、つかませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>K（繰り返し挑戦する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述を基に、ごんと兵十の気持ちを自分で考えることに繰り返し挑戦させる。 </div>	<p>【読む能力】 ごんと兵十の気持ちが加助の言葉によって変化していることに気づき、気持ちを考えている。 (取材ノート)</p>

7 本時の学習（1組）

（1）本時の目標（第8時／全13時）

ごんが撃たれた場面のごんと兵十の行動をつかみ、気持ちを考える。

（2）授業の視点

取材ノートを作ることで、ごんと兵十の行動や気持ちの変化をとらえさせる。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示(5)	<p>1 単元のゴールを確認し、前時までの振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ごんがうたれた場面のごんと兵十の行動や気持ちを取材しよう。</div> <p>3 自分の振り返りの視点を設定する。 例 A 前の場面とつなげて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 兵十に気付いてほしいと思いだめたごんの気持ちの変化を振り返らせる。 	
課題の解決(30)	<p>4 ごんが、栗を持って兵十の家を訪れた場面の行動をつかみ、気持ちを考える。</p> <p>◎ 兵十は、ごんを見つけて、立ち上がって火縄銃を取って近寄ったときに、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> またいたずらをしに来たな。許さない。 きつねが憎い。 今日こそは痛い目に合わせよう。 <p>5 撃った後のごんと兵十の気持ちを考える。</p> <p>◎ どのようなインタビューを考えてきましたか。新聞記者役とごん役と兵十役に分かれて、取材をしましょう。</p> <p>『兵十は、ごんをうった後どんな気持ちだったのですか。』 「まさかおまえだったとは…という信じられない気持ちでした。」 「おれは何てことをしてしまったんだと後悔する気持ちでした。」 「ごん、悪かった。許してくれ。と思いました。」 「今までいろいろ運んでくれてありがとう。と思いました。」</p> <p>『ごんは、兵十にうたれた後どんな気持ちだったのですか。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「あのごんぎつねめ」「またいたずらをしに来たな」「火なわじゅうを取って」「足音をしのばせて」などの叙述から、兵十の気持ちを想像させる。 なぜそう考えたのか、叙述をもとに発表させる。 これまでの取材ノートを基に、それまで憎んでいた兵十のごんへの気持ちが大きく変わることをとらえさせる。 <p>☆ 「びっくりして」「ばたりと取り落としました」という叙述から考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">J（じっくり考える）</div> <ul style="list-style-type: none"> ごんが撃たれた後のごんと兵十の気持ちの変化を叙述を基にじっくり考えさせる。 <p>☆ 「引き合わないなあ」「うなずきました」とい</p>	<p>【読む能力】 ごんをうつつ前と後の兵十の気持ちの変化と撃たれたごんの気持ちを考えられている。 (取材ノート)</p>

<p>○ごん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あの時は、うなぎを取ってごめんなさい。 ・ 兵十が気付いてくれて嬉しい。 ・ うなぎのつぐないができてよかった。 ・ 撃たれたのは悲しいけど、兵十に分かってもらえてよかった。 <p>6 グループ学習をする。</p> <p>◎ グループになって、自分の考えを交流しましょう。自分の考えと同じところや違うところを見つけながら聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵十に取材をすると、ごんを撃つ前はごんを憎いと思っていたけれど、ごんがくりやまつたけなどを持って来てくれていたことが分かって、驚いた後、悲しい気持ちになったと言っていて、僕もそう思いました。 ・ ○○君と同じ意見で、兵十は悲しい気持ちだったと思います。それに付け加えて、自分はなんてことをしてしまったのだと後悔した気持ちもあると思いました。 ・ ごんに取材をすると、気付いてもらえて嬉しかったと言っていました。でも私は、せっかく気付いてもらえたのに撃たれたから悲しかったのではないかと思います。 ・ △△さんと違う意見で、ごんは悲しくはなかったと思います。「兵十いたずらしてごめんね。許してほしい。」という気持ちだったと思ったからです。 <p>◎ 各班のなぞについて、話し合しましょう。(編集会議)</p> <p>7 全体交流をする。</p> <p>◎ 兵十とごんのそれぞれの気持ちを発表しましょう。</p> <p>○兵十</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前はいたずらばかりしていたごんが、まさかくりやまつたけやらを置いていてくれていたとは夢にも思わなかった。ごん、すまない…。 ・ なぜごんは、おれにこんなによくしてくれていたのだろうか。ごんも、本当はおれと同じで 	<p>う叙述から考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」という一文の効果を考えさせる。 ・ 友達の考えを聞いて、もう一度自分の考えを振り返らせる。 <div data-bbox="906 589 1281 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>K (繰り返し挑戦する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ学習で、友達の考えを吸収し、もう一度自分の考えを整理したり深めたりさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班のなぞについて、本時の学習が少しでも解決につながっていないかを考えさせる。 	
---	---	--

	<p>さみしかったのだろうか。</p> <p>○ごん</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵十、気付いてくれてありがとう。一人ぼっちの毎日はさみしいと思うけれど、元気を出してこれからも生きていってくれ。 ついに気付いてもらえた。撃たれてしまったけど嬉しい気持ちもあるなあ。 <p>8 取材ノートを書く。</p> <p>◎ 取材ノートに、この場面のごんと兵十の行動や気持ちを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵十は、ごんがくりやまつたけを置いてくれていたことを初めて知った。 兵十は、本当のことを知らずにごんを撃ってしまい、後悔の気持ち。 ごんは、兵十に分かってもらえて、うたれたけれど嬉しい気持ちもある。 ごんは、うなずいた時、気付いてもらえて幸せな気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ごんと兵十の気持ちや場面の様子などを取材ノートに書かせる。 <div data-bbox="906 629 1286 860" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>H (はっきり表現する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ごんと兵十のそれぞれの気持ちの変化を取材ノートに書かせる。 </div>	
<p>まとめ・振り返り(10)</p>	<p>9 本時のまとめ・振り返りを書く。</p> <div data-bbox="252 1077 879 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>兵十は、ごんのこれまでの行動が初めてわかりおどろきとこうかいの気持ち。ごんは、これまでのつぐないが伝わって、うたれてしまったが、うれしい気持ち。これまでごんが一方的につぐないをしていたが、本当のことが分かって兵十の気持ちが大きくかわり、二人の気持ちが通じ合った。</p> </div> <div data-bbox="252 1447 879 1648" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>引き合わないなあと思いながらも同じ一人ぼっちの兵十に対してつぐないを続けたごんのこれまでの気持ちが、やっと兵十につたわったと思った。</p> </div> <p>10 次時の活動について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取材ノートを基に、「ごんぎつね新聞」を書いていくことを意識させる。 	